

新潟市地域福祉計画 第1・2回委員会での意見の整理

基本理念(案)：だれもが安心して暮らせるように地域で支えあうまちづくり

- 地域自治・住民自治の考え方や市民参画・市民の主体性をどう反映させるか
- (隣近所との関係も含め)新潟市民として自分がどう生きるかということも問われているのでは
- 子どもに関する視点があまり載らなくてもいいのか
- 「だれもが」という言葉は、主人公が「あなた」であり「私」であり「市民」であるということだと思う。攻めの言葉が欲しい
- 地域社会を担うべき団塊の世代が夢を持ってない・社会参加が少ない状況があり、目を向けてほしい

基本目標1(案)：地域で支えあい、助けあう地域づくり

- 「支えあい」から一步踏み込んで、「寄り添い」という概念があってもいいのでは
- 地域・コミュニティにおけるコミュニケーションの促進の視点(絆の価値)はどうか
- 障がい者も高齢者も子どももお互いに支えあうということの市民理解が必要
- 地域の人顔が見えない時代。高齢化・空き家の増加もあり、地域の力が失われており、これを再生する仕組みづくりが必要
- 女性が安心して出産できるように、地域みんなで子育てする仕組みがほしい
- 住みやすい場所、第2の人生を過ごしやすい場所が新潟だというメッセージがあると良い
- 人材確保を含め、若者世代が担う役割を取り込む計画づくりを盛り込んでほしい
- 地域から人がいなくなってきていて、人間関係も希薄になってきている

基本目標2(案)：安心、安全に暮らせる地域づくり

- 災害時の助け合いのあり方はどうか
- 「安心」は受け身では得られない。自立した市民の主体性を育てるサポートが必要

基本目標 3 (案) : 健康でいきいき暮らせる地域づくり

- (地域包括ケアシステムの関係で) 医療と予防と介護と住まいと日々の生活支援を一体化させた、新しい 21 世紀型の地域コミュニティづくりの視点はどうか
- 医療機関の保健予防活動と福祉が結びつくと良い。地域の見守りも予防活動には大事
- 高齢者といえばゲートボールという時代ではない。時代に合わせた考え方が必要
- 高齢者の外出・就労などによる予防福祉の観点はどうか。伝統的福祉の部分で行政ができないことを、生きがい就労のような形でやることが予防につながる

基本目標 4 (案) : 情報の共有、相談支援体制の充実した地域づくり

- 既存福祉分野間の横断的連携が不足。新しく出てくる地域福祉課題も含めどのようにネットワーク化していくか
- シェアという概念を踏まえつつ、情報化社会の進展を踏まえた攻めのパラフレーズができれば良い
- 高齢者・障がい者が、例えばネット情報に触れ、それを使った仲間づくりができるという視点を取り込むと、もっと広がっていく
- 高齢者が支えあうにしても移動手段がないと何もできない状況もある
- 本当に困っている人はなかなか外に出てこれないが、そうした方とネット環境を使ってやり取りする仕組みも良いのでは
- 団塊世代に対して、地域で求められているスキルの情報提供を行う引っ張り役が必要
- 自分の夢を語れる場を提供できると良い。夢が持てるようなネーミングも必要
- 男女それぞれのライフプランや傾聴・思いやりを教育するシステムや私たち自身が生きる価値を高めていくための福祉教育が必要